

## 第58回通常総会・第85回講演大会記事

昭和 48 年度第85回講演大会は、東京都目黒区大岡山の東京工業大学で4月5日、6日、7日の3日間開催された。この大会では講演会、討論会ならびに第 58 回通常総会、特別講演会、名誉会員推挙式、表彰式、懇親会、ジュニアパーティーが行なわれた。

**第85回講演大会** 4月5日、6日、7日の3日間にわたり、273 件の講演が専門別 9 会場に分かれて行なわれた。また以上のほか下記 5 テーマの討論会が行なわれた。

1. 装入物の性状と高炉操業について
2. 連続鑄造の凝固について
3. 熱延原板性情が冷延鋼板の形状におよぼす影響について
4. 非調室高張力鋼の制御圧延—冷却により得られる性質—
5. 鉄鋼中の不純物と格子欠陥

**第58回通常総会** 第 58 回通常総会は4月5日午後1時30分より東京工業大学第3新館 331 室で開かれた。田畑専務理事司会のもと初めに中野会長より次のような挨拶があつた。



第58回通常総会における中野会長挨拶

「本日ここに多数の先輩方を始め、会員諸兄ご臨席のもとに、日本鉄鋼協会第 58 回通常総会を開催するに当たり、会長として一言ご挨拶申し上げます。

日本鉄鋼協会は、伝統ある歴史のもとに、常に社会情勢の変化に即応した事業活動を展開し、年を追うごとに輝しい発展を続けて参りましたことは、皆様方の既にご承知の通りであり、誠に同慶の至りでございます。

鉄鋼は経済活動の基礎となる資材であり、先進諸国においても、発展途上国においても、経済成長および生活水準の向上に欠かせないものとして、現代社会の進歩を支えており、鉄の需要は年々拡大しその用途はますます多様化の傾向を強めております。

一方近年われわれを取り巻く環境は頗る厳しく多くの問題が出て来ていますが、一企業あるいは一国だけでは決してこれら諸問題を解決することは出来ず、世界各国の密接な相互協力が必要な国際協調の時代に入つたと考

えられます。

このような情勢下にあつて当協会におきましては、ご高承の通り、各共同研究会の活動が非常に活発であり、併せて各委員会も確実に成果を挙げられつつありますので、本年度もこれら研究会、委員会のより効果的運用が行なわれるよう期待しております。今年度政府は、原子力エネルギーの産業界への利用方策として、48年度を初年度とする大型プロジェクトによる研究テーマとして、原子力製鉄の研究開発をとり上げており、当協会の原子力部会の今までの調査研究がその基になつていることは既に皆様方のご承知の通りでございます。鉄鋼業の将来を考えますとき、大きな課題となるエネルギー問題、公害問題に対処するためにも、当協会は原子力部会の活躍によりこの大型プロジェクトの研究に大きく寄与したいと念じております。

次に環境問題につきましては、本会は共同研究会などにおいて具体的な問題を取り上げて対策を検討致しておりますが、たまたま来年2月国際鉄鋼協会の環境国際シンポジウムが東京において開催されることとなり、本会と致しましては出来る限りのご協力を致す予定であります。

次に国外の関係では、従来当鉄鋼協会は各種の国際会議あるいは国際シンポジウムを開催し、国際的学术交流に道を開いて参りましたが、今年度もまたこの私の挨拶の後、吉田企画委員長が昭和 48 年度事業計画のご説明をなさる予定であり、その中に述べられる通りこの6月上旬に第4回真空冶金国際会議および第4回エレクトロスラグ国際シンポジウムを、東京経団連会館において開催するのを始めとして、日ソ日中間の技術交流などにつきましても具体的な活動を行なう予定になつております。

なお、今回世界の鉄鋼業の指導者的立場にあられるブランド博士およびリチャードソン博士を本会の名誉会員にご推挙申し上げることとなり、両博士と本会とがより強いつながりを持つようになりますことは、本会にとりまして誠に力強く、ここに両博士に対し最大の敬意を表する次第でございます。

この他、本会は標準化事業、シソーラス作成計画、教育問題など新しい時代にふさわしい意義深い活動を展開し、魅力あるビジョンをもつて研鑽を重ね、鉄鋼業界に貢献致す覚悟でございます。

先輩各位、会員諸賢のご協力をお願い致す次第でございます。

ついで議事に入り、理事、監事ならびに評議員選挙が行なわれた。別室において開票をしている間に昭和47年度事業報告、収支決算および財産目録の件ならびに昭和48年度事業計画ならびに収支予算の件を一括議題に供して審議に入り、吉田理事より次のような事業報告がなされた。

昭和 47 年度事業報告ならびに昭和 48 年度事業計画についてご説明申し上げます。

日本鉄鋼協会は、日本鉄鋼業の置かれている国際環境

を考慮し、国際化時代に対処して、各種の国際会議ならびに国際シンポジウムを主催して参りましたが、本年は日本鉄鋼協会、日本金属学会、日本真空協会共催のもとに、6月4日から8日まで、経団連会館において第4回真空冶金国際会議を開催することとなり、周到な企画立案のもとに準備が進められております。本国際会議には特にソ連、東欧など共産圏諸国からも多数の論文が発表される予定で、討論を主体にした国際的学术交流が実現されることが望まれております。また本国際会議は、鉄鋼関係のみにとどまらず、真空冶金に関連する広い分野にわたっており、周辺分野と協調して、新技術を開発する上に大きな前進が期待されるとともに、宇宙開発など日本にとって未開拓の新分野にも多くの収穫が得られるなど、本国際会議の意義は誠に多大なものと思われざるを得ません。また本国際会議とあい前後して、第4回日ソ製鋼物理化学合同シンポジウムおよび第4回エレクトロスラグ国際シンポジウムの開催が予定されております。また本年は、国交正常化の成立した中国との技術交流を促進すべく、中国金属学会を窓口として、積極的な交渉を行ない皆様方のご期待に応える所存でございます。

次に原子力時代を迎え、原子力エネルギーの産業界への利用が漸く実用の段階に入つて参りましたことは、わが国のエネルギー情勢を考えると、その意義は誠に大きいものと申せましょう。一方、通産省におきましても環境問題対策の一環として、新しい製鉄法開発のため昭和48年度を初年度とする大型プロジェクトによる研究テーマとして、原子力製鉄の研究開発をとり上げております。今後、大型プロジェクトによる研究開発の実施にともない原子力部会の活動方針および体制の再検討が必要であると存じます。

次に、将来の社会は複雑化、多様化し、情報が最も重要な役割を果たすいわゆる情報化社会の到来が予想されております。従つて、本会では資料室の拡大、文献検索体制の整備、鉄鋼情報センターの設立、抄録集の刊行など活発な情報活動を実施する所存でございます。とくに「情報検索用語関連辞典」とも称すべき、シソーラス作成実行計画を推進すべく、昨年6月準備委員会が発足致しました。当協会と致しましては、関連学協会と相互に協力して情報流通システムの促進をはかり、情報技術の開発に邁進する所存でございます。

今日、環境問題は鉄鋼業界として、最重要課題のひとつでございます。当協会と致しましては、高炉各社参加のもとに排煙脱硫試験委員会を設置し、焼結炉排煙脱硫の共同研究を推進するとともに、各種の公害防止対策について共同研究会などで、部門別にとり上げて成果を収めております。しかし環境問題の根本的解決のためには単なる現在の公害防止技術の開発だけではなく、環境破壊を伴わずして、経済成長や技術開発を進めるためには如何にあるべきかという基本的問題の解決に迫られております。最近、新しい開発計画や技術開発について、事前に社会に及ぼす影響を予測評価しようとするテクノロジー・アセスメントの動きが活発化しております。このような手法を導入することは、鉄鋼技術への信頼を高めるためにも、また環境問題解決の立場からも、きわめて重要なことと存じます。

次に、昨年の本会事業を顧みまするに、注目すべきは「鉄鋼製造法」(全4巻)の刊行でございます。このほか、本会は15部会、21分科会よりなる共同研究会において、鉄鋼製造技術に関する研究活動を、きわめて活発に展開致しております。さらに、鉄鋼基礎共同研究会におきましては、大学および企業の研究者の精鋭を集め、部会長には有能な若手を起用して、新風を吹き込み、柔軟性ある運営を行なつて成果を挙げております。次に、標準化委員会においては、鉄および鋼に関するJISの見直し検討、新規および改正JIS原案の作成データシート、ISOの国際規格の審議およびコメントの作成、ISO国際会議への参加などを通じて国際的発言権を増大致しております。次に本会は、教育委員会を設置して、教育活動を企画推進し、理念の追求を行なうとともに、教育シンポジウムを開催して、鉄鋼エンジニア教育のあり方を討議し、その成果をレポートにまとめて、関係者に配布し多大の反響を呼んでおります。

さらに当協会では、会誌、図書編集、刊行、見学会講習会、表彰事業など、広範にわたる活動を展開致しております。とくに、講演大会には、優秀な論文が春秋併せて約580編程度発表されておりますが、このように立派な論文が多数提出され、活発な討論が行なわれることは日本の鉄鋼科学技術の隆盛を物語るものであり、当協会の役割りの重要性を示すものとして、注目されます。なお、本会事業の詳細につきましては、昭和47年度事業報告・収支決算ならびに、昭和48年度事業計画・収支予算(案)をご覧いただきたいと思ひます。また、協会事業に対する会員の皆様の認識を深めると同時に、衆知を集めて、協会のより良き、運営方法を検討すべく昨年の終りに、協会の事業についてアンケート調査を実施致しました。

今後、社会環境の変化はますます烈しさを加えてまいることと存じます。これまでの、重化学工業化の時代から、システム化、情報化の時代へと進展し、人間生活の向上を目指して高度な、しかも広範囲にわたる総合的な技術が要求されることは明らかでございます。また、日本の鉄鋼業は長期的視野にとつて、将来の社会、経済の要請に応え得る適確なプロジェクトを推進し、量から質への転換をはかる必要があると存じます。このようなときに、鉄鋼科学技術の役割はますます増大しており、本会の果たすべき使命の重要性を痛感致しております。

先輩各位、会員諸賢のご指導をお願い致す次第でございます。

ひきつづき石原理事より、昭和47年度収支決算、剰余金処分、財産目録、別途資金会計、補助金事業など会計ならびにその昭和48年度予算が別添資料によつて報告がなされた。

以上報告のあと池上監事より監査報告がなされ、各議案とも満場一致をもつて可決された。

続いて先に行なわれた理事、監事ならびに評議員の選挙結果がまとまり、郡司、細井両選挙管理委員より理事改選16名、監事改選1名、評議員改選120名の各候補者全員が選挙の結果絶対多数をもつて当選された旨の報告があつた。ここで一旦総会は休憩に入つたが、その間同会において臨時理事会が開かれ、副会長2名、専務理

事1名の互選が行なわれた。その結果副会長に不破，渡辺両理事が，専務理事に田畑理事が選任され，総会は終了した。

**名誉会員推挙式** 総会に続いて名誉会員推挙式が行なわれた。初めに中野会長より推挙理由が述べられ，次の三氏に名誉会員推挙状ならびに名誉会員章が贈呈された。

名誉会員  
 的場幸雄氏 東北大学名誉教授  
 新日本製鉄(株)常任顧問  
 Hermann Th Brandi 氏 A.T.H. 副社長  
 F.D. Richardson 氏 ロンドン大学  
 インペリアルカレッジ教授



名誉会員章を受けられる Brandi 氏

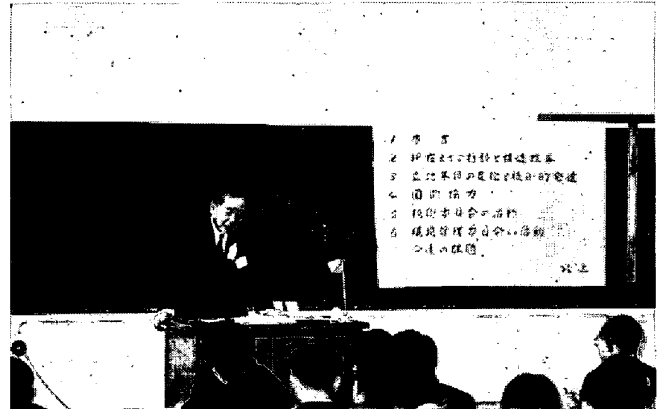
**表彰式** 名誉会員推挙式に続いて下記受賞者の表彰が行なわれ，表彰状ならびに賞牌，賞金が授与された。

服部賞	赤羽 正輝君	中島 泰祐君
香村賞	菅井 五郎君	安永 和民君
依論文賞	槌谷 暢男君	徳田 昌則君
	大谷 正康君	野村 宏之君
	森 一美君	鈴木健一郎君
	三本木貢治君	松原 博美君
	大須賀立美君	小指 軍夫君
	東田幸四郎君	長島 晋一君
	大岡 耕之君	関野 昌蔵君
	三村 宏君	藤島 敏行君
	矢野清之助君	桜井 浩君
	秋田 正弥君	竹入 侑君
渡辺三郎賞	藤本 一郎君	
渡辺義介賞	安生 浩君	岡田 秋好君
渡辺義介記念賞	岡田 典昌君	小田 尚輝君
	神居 詮正君	北川 典生君
	高木 文雄君	高橋 久君
	田中 誠一君	天明玄之輔君
	細井 秀夫君	松尾 英一君
	南 敬太郎君	山崎 宏君
	横田 礼三君	

西山賞 齋藤 恒三君  
 西山記念賞 大井 浩君 神原健二郎君  
 白石 裕君 鷹取 正六君  
 津谷 和男君 西沢 泰二君  
 宮津 隆君 保田 正文君  
 山腰 登君 吉永 真弓君

浅田賞 仲 威雄君 那須 重治君  
**特別講演** 4月5日表彰式に続き特別講演2題，ならびに4月6日午前浅田賞受賞講演2題が行なわれた。

1. 溶融鉄合金のガス吸収，放出現象について  
 西山賞受賞 齋藤 恒三氏
2. The Development of the German Steel Industry during the Past 25 Years  
 A.T.H. 副社長 Dr. Herman Th Brandi
3. 日本フェロアロイ工業の構造改善と技術的発達について  
 浅田賞受賞 那須 重治氏
4. 建築における鉄骨構造  
 浅田賞受賞 仲 威雄氏



浅田賞受賞講演中の那須氏

**懇親会** 4月5日午後6時より東京工業大学内大学食堂で日本金属学会と合同で開かれた。ちょうど満開の桜を窓外に観られ，不破新副会長司会のもと参加者250名をなす盛況を呈した。

挨拶，スピーチをいただいた方は次の通りである。

挨拶 日本鉄鋼協会会長 中野 宏氏  
 日本金属学会会長 齋藤 恒三氏  
 日本金属学会新会長 竹内 栄氏  
 スピーチ 東京工業大学工学部長 浅技敏夫氏  
 A.T.H. 副社長 Hermann Th Brandi 氏  
 M.L.T. 教授 J. Chipman 氏  
 乾杯 東京大学名誉教授 三島 徳七氏  
 万歳三唱 東北大学名誉教授 的場 幸雄氏

**ジュニアパーティー**  
 4月6日午後5時30分より大学食堂で開催された。参加者140名にのぼり盛況を呈した。